

市政報告19

# 未来に責任

枚方市議会議員 無所属

# 木村亮太



## 経歴

1984年4月生まれ、枚方小学校・バンコク日本人学校・枚方中学校・四條畷高校・大阪大学、化粧品を扱うベンチャー企業を経て市議会議員に。  
グロービス経営大学院大学（MBA）・京都大学公共政策大学院 修了

## 問い合わせ先

TEL：070-5651-5832 MAIL：hirakata@kimura-ryota.net

## 政治スタンス

- × 特定の地域や団体だけに利益を誘導する政治
  - 枚方市全体の課題を解決する政治
  - × 負担を先送りする政治
  - 未来に責任を持った政治
- 政策や想いで選ばれる政治を実現するため情報発信をしております。

## 新型コロナウイルス対策について

昨年11月から年末にかけては減少傾向にあった感染者の数も、1月からまた急増するなど先が見えない状況が続いています。このチラシがお手元に届くころには感染者が減り、コロナ以前の生活に戻っていることを望みます。コロナ禍においていただいたお声をもとに右のような対応をしております。精神的にも経済的にも苦しいことが多いと思いますが、私なりに各種SNSでの情報発信やお問い合わせの受付をしておりますので、不安なことや、少しでも気になることなどがあればお気軽にご連絡ください。

## 観光交流施設、やはり慎重な議論が必要

2020年11月、「観光交流施設の整備に活用してほしい」と市に対して2億円の寄付がありました。市と寄付者の意向が食い違い寄付金を受領して1年以上たっても今後の方針が示されていませんでした。

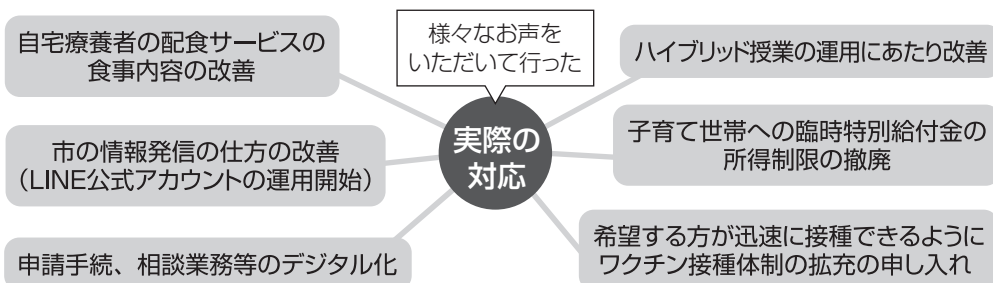
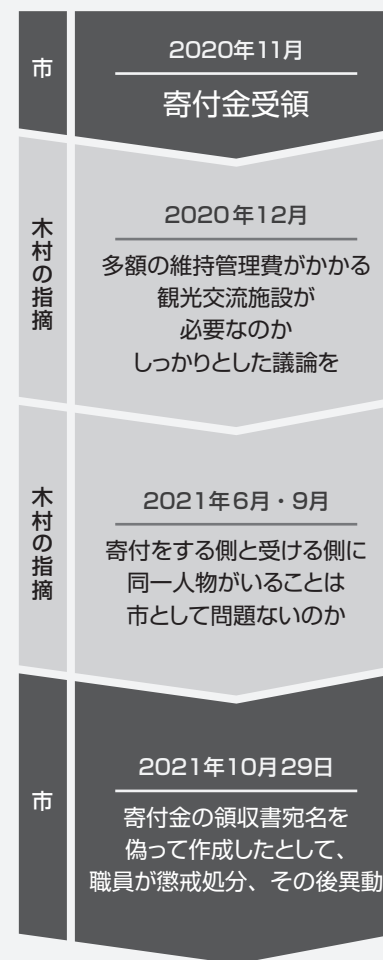
寄付者の意向：公共施設の建て替え費用として  
市の意向：改修や解体などを含めた費用として

原因を調べていく中で寄付をする側の団体にも受ける側の枚方市にも同一人物がいることがわかったため、それが正常な議論を進めることができない構造につながっているのではないかと私が組織としての問題を議会で指摘しました。しかし、市としての改善の意思は見えていませんでした。

その後、寄付した団体にも所属していた職員が国に対して申請する書類を偽造していたことが発覚し、当該職員が懲戒処分となりました。市として問題構造を解消しなかったことで意に反することをせざるを得ない部下職員もあり、非常に残念です。

多額の寄付をしていただけることは大変ありがたいことです。しかし、市としては人口減少社会において今後維持管理費がかかる公共施設を新しく整備する必要があるのかをまず考えるべきです。2021年12月での議会で「民設民営を基本と考えている」とのことで市として多額の維持管理費がかかる可能性は低くなりましたが、今後正常な議論がなされるのかをチェックしてまいります。

●これまでの経過と木村の指摘



# 子育て支援（待機児童対策 負担軽減）

## ●待機児童対策

年度当初と途中の待機児童は以下のようになっており、対策を実施してもまだまだ解消されていません。

種別	4月1日	11月1日
待機児童	0	79
潜在的待機児童（隠れ待機児童）	259	399

0～1歳児が約85%  
2歳児が約13%  
3歳児以上は約2%

## ○0～2歳児の対策として待機児童用保育室の利用促進を

現状：待機児童のための保育枠も確保していますが、以下のように利用人数が少ないです。

- ・さだ西臨時保育室の利用は延べ10人程度（定員は50人程度）
- ・就労応援型預かり保育の利用は延べで9人（定員は3人×13施設=39人）

・認知度や場所、費用など、認可保育所と比べて入所のハードルとなっている原因を分析し、利用しやすいように改善を  
と提案しております。

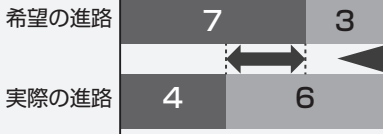
## ○3歳児の対策として

### 「3歳の壁」をなくすように

現状：  
小規模保育の卒園児の希望の進路と実際の進路を確認すると右のように必ずしも希望通りの進路になっていません。

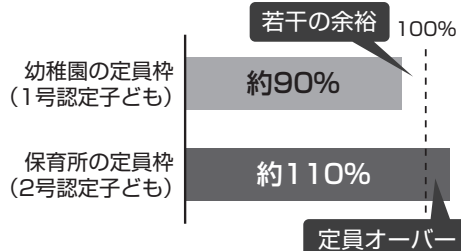
小規模保育卒園児の希望の進路と実際の進路の比較

■ 保育所 ■ 幼稚園



小規模保育の卒園児の3割は  
やむを得ず幼稚園に

そのため、  
・保育所に通いたかったが幼稚園に通うことになっている方々のニーズを幼稚園に伝える  
・また、こども園でも右のような定員状況になっているため、1号認定子どもの定員枠を2号認定子どもの定員枠に振り替えてもらう  
などの対応をしていくべきだと提案しております。



## ●保育所に子どもを通わせる保護者の負担軽減を

これまでも完全給食（主食の提供）の実施など保育所に子どもを通わせる親の負担軽減を提言してきました。これまで提案していた使用済みおむつの持ち帰りについても2022年4月よりを廃止が決定しました。ほかにもオンラインで入所の相談や申請ができるように提案しています。今後も保育所は子どもを安心して預けられる施設であるとともに、働く世代である保護者の負担ができるだけ軽減される場にもなるよう取り組んでまいります。



# 子どもたちの放課後の居場所を

子どもが就学後も保護者が安心して就労でき、子どもたちが学校で楽しく安全に過ごせる場をつくる総合型放課後事業。枚方市では4つの小学校で先行導入し、その後の展開は、「コロナ禍の財政状況を見据え、実施時期を検討する」となっていました。家庭のニーズが高いこと、全小学生対象に実施する事業の中では費用が多額にかかるものではないことを踏まえ早期実施を求めています。

（回答数=1,760）

小学生の子どもを持つ家庭にニーズが高い取り組み	回答数	構成比
子育て世帯への経済的援助の拡充（育児休業給付、児童手当、扶養控除の拡充等）	911	51.8%
親子が安心して集まれる公園等の屋外の施設を整備する	884	50.2%
安心して子どもが医療機関（小児救急など）を利用できる体制を整備する	709	40.3%
子どもの安全を確保する対策を充実する	709	40.3%
親子が安心して集まれる保育所・幼稚園や小学校の運動場等の開放を増やす	621	35.3%

第2期子ども子育て支援事業計画ニーズ調査より

## 【その後の動き】

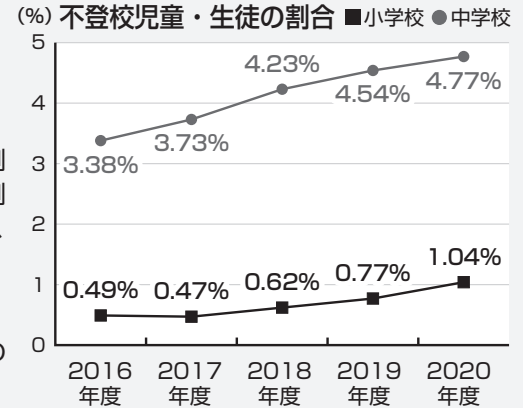
2023年度から枚方市の全小学校で平日・土曜日・3季休業（春・夏・冬）で総合型放課後事業を実施予定と2021年11月に発表。

# 右肩上がりに増える不登校生の支援を

これまでの支援策だけではなく、他市での事例があるフリースクール費用の助成や不登校特別校の設置も含めた対応を考えていくべきであり、協議の場を設けていくべきと提案しています。

## 【その後の動き】

新たな会議体を設置し、不登校児童・生徒への対応等を協議していくことに。



不登校特別校・・・学習指導要領にとらわれず、不登校生の実態に配慮した特別な教育課程をもつ学校。小グループ指導や個別学習、授業のオンライン配信などを行っている。

# 公共施設のフル活用を

用途が廃止した施設についてスケジュール感をもって、空白期間を生じさせることなく他用途での有効活用策を考えていくべき。

# 前例踏襲主義の打破や若手の意見が通る職場に

部下から上司を評価する360度評価の導入や評価の厳格化も提案しております。